

国際医療ボランティアAMDA  
(岡山市北区伊福町)がハイチ大地震の被災者に行っている義肢支援事業で、義足の提供を受けたハイチ人少女ガエル・エズナルさん(18)が15日、岡山市を訪れて会見。「AMDAの活動に感謝している。ありがとう」と述べた。

# 善意の義足 ありがとう

## ハイチ大地震被災者・エズナルさん来岡

### AMDA支援に感謝

エズナルさんは首都・ポルトープランスにあった自宅アパートの倒壊でがれきの下敷きとなり、右足のひざから下を切断。昨年10月、知人からAMDAの活動を聞き、義足の提供を受けた。

AMDAの招きで来日。21日まで滞在し、神戸市で阪神淡路大震災の被災者と交流した。各地で報告会に臨む。

昨年1月に起きたハイチ大地震の死者は30万人を超えるとされ、80万人以上がテント生活を余儀なくされている。建物の倒壊や治療の遅れから手足を切断した人は4千人以上と



義足の提供に、感謝の言葉を述べるエズナルさん(左)。右はAMDA現地調整員の歯科医

AMDAは地震発生後、緊急医療活動や復興支援のため、多国籍医師団や調整員ら延べ44人を現地に派遣。42人分の義足を製作したほか、感染拡大が深刻化するコレラの予防・治療にも当たった。

ただ、現地的情勢不